

四半期報告書

(第54期第3四半期)

自 平成29年10月1日

至 平成29年12月31日

ワタベウェディング株式会社

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5

2 役員の状況

	5
--	---

第4 経理の状況

	6
--	---

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10

2 その他

	13
--	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

	14
--	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成30年2月1日
【四半期会計期間】	第54期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	ワタベウェディング株式会社
【英訳名】	WATABE WEDDING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 花房 伸晃
【本店の所在の場所】	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
【電話番号】	075（778）4111（代表）
【事務連絡者氏名】	グループ管理本部長 平木 親臣
【最寄りの連絡場所】	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
【電話番号】	075（778）4111（代表）
【事務連絡者氏名】	グループ管理本部長 平木 親臣
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期連結 累計期間	第54期 第3四半期連結 累計期間	第53期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (百万円)	33,783	34,480	43,908
経常利益 (百万円)	1,269	1,075	675
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	536	575	124
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	593	596	247
純資産額 (百万円)	10,901	11,067	10,540
総資産額 (百万円)	19,967	23,518	21,348
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	54.14	58.04	12.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	54.2	46.9	49.1

回次	第53期 第3四半期連結 会計期間	第54期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	115.88	82.99

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 当第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度の関連する主要な経営指標等については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直し反映された後の金額により算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間における運営状況と経営成績について、「リゾート挙式」におきましては、ハワイ・ワイキキ地区に平成29年5月にオープンした「ラニレア チャペル」、沖縄本島から車で行ける利便性と美しい景観が魅力の古宇利島に平成30年7月にオープンする「古宇利島 空と海の教会」などの挙式施設の新設に加え、その他エリアにおいても主要施設のリノベーションなどを積極的に行い、多様化するお客様のニーズに合わせた付加価値の高い商品を投入し、販売力の強化に努めました。また、一時営業休止中のハワイの主力挙式施設「コオリナ・チャペル・プレイス・オブ・ジョイ」の平成30年10月リニューアルオープンを発表するなど、更なる顧客獲得に向けた商品ラインナップの強化を図りました。

また、新たな販売チャネル戦略として、これまで出店していないエリアでの当社認知度向上と新規顧客獲得を図るべく静岡県浜松市に「浜松ラウンジ」を平成29年10月にオープンいたしました。

更に、従来の販売手法やサービス内容とは異なる新たなリゾート挙式の価値提案を行う2つの新ブランド（オンライン限定の低価格帯ブランド「EASY by WATABE WEDDING」、こだわり層向けの高価格帯ブランド「PLATINUM BIRTHY（プラチナ パーシー）」）を本格稼働し、様々なニーズにお応えするための対応も積極的に進めてまいりました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、ホテル雅叙園東京では、リブランドによる積極的な価値訴求を行い、宿泊・婚礼共に好調に推移いたしました。更に、平成29年5月には人気イタリアン「リストランテ カノピアーノ」、平成29年9月にはニューアメリカングリル「カナデ テラス」の2つのレストランをオープンするなど、総合ラグジュアリーシティホテルとして館内施設の充実を図り、収益に寄与いたしました。

メルパルクでは、婚礼組数は減少したものの、松山・横浜の客室リノベーションを行い、付加価値の向上を図りました。また、ワタベウエディングとの共同事業として、平成29年9月には、ホテルメルパルク東京内のフォト事業をワタベウエディングの直営店舗とした「東京・芝公園フォトスタジオ」をオープンし、多様化するニーズに合わせた複合型フォトスタジオとして積極的なサービス展開を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高34,480百万円（前年同四半期比2.1%増）、営業利益1,034百万円（前年同四半期比33.3%減）、経常利益1,075百万円（前年同四半期比15.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益575百万円（前年同四半期比7.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

挙式取扱組数は減少したものの、上述の顧客ニーズに合わせた商品展開を行ったことなどにより、1組当たり単価が増加し、売上高は14,005百万円（前年同四半期比1.6%増）となったほか、利益面につきましては、新施設や新事業立ち上げに伴う広告宣伝費などの先行投資により、セグメント利益は238百万円（前年同四半期比70.1%減）となりました。

② ホテル・国内挙式

積極的なブランド価値訴求や客室リノベーションなどの効果により、売上高は20,474百万円（前年同四半期比2.4%増）となったほか、利益面については、原価や販売管理費の削減に努めた結果、セグメント利益765百万円（前年同四半期比14.5%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ887百万円増加し、10,348百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,282百万円増加し、13,170百万円となりました。これは主に建物及び構築物の増加によるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ2,170百万円増加し、23,518百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ102百万円減少し、8,868百万円となりました。固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,746百万円増加し、3,582百万円となりました。これは主に長期借入金の増加によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ1,643百万円増加し、12,451百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ526百万円増加し、11,067百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年2月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,909,400	9,909,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	9,909,400	9,909,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	—	9,909,400	—	4,176	—	4,038

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 400	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,906,400	99,064	—
単元未満株式	普通株式 2,600	—	—
発行済株式総数	9,909,400	—	—
総株主の議決権	—	99,064	—

② 【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数（株）	他人名義 所有株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
ワタベウェディング 株式会社	京都市下京区 四条通烏丸東入 長刀鉾町20番地	400	—	400	0.00
計	—	400	—	400	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,436	6,750
売掛金	1,580	1,524
商品	276	234
原材料及び貯蔵品	398	449
その他	1,784	1,408
貸倒引当金	△15	△18
流動資産合計	9,460	10,348
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳(純額)	147	124
建物及び構築物(純額)	4,012	5,086
器具備品(純額)	1,006	1,203
土地	1,893	1,893
その他(純額)	630	211
有形固定資産合計	7,690	8,519
無形固定資産		
のれん	511	582
その他	498	492
無形固定資産合計	1,009	1,074
投資その他の資産		
差入保証金	2,666	2,752
その他	524	826
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	3,187	3,576
固定資産合計	11,887	13,170
資産合計	21,348	23,518
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,549	1,821
短期借入金	975	1,512
未払法人税等	309	304
前受金	2,466	2,251
賞与引当金	626	351
その他	3,043	2,626
流動負債合計	8,970	8,868
固定負債		
長期借入金	—	1,500
退職給付に係る負債	1,050	1,072
資産除去債務	588	828
その他	197	181
固定負債合計	1,836	3,582
負債合計	10,807	12,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,038	4,052
利益剰余金	2,579	3,105
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,793	11,333
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	23
繰延ヘッジ損益	25	11
土地再評価差額金	△903	△903
為替換算調整勘定	514	550
退職給付に係る調整累計額	36	23
その他の包括利益累計額合計	△308	△294
非支配株主持分	55	28
純資産合計	10,540	11,067
負債純資産合計	21,348	23,518

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	33,783	34,480
売上原価	10,945	10,781
売上総利益	22,838	23,698
販売費及び一般管理費	21,286	22,664
営業利益	1,551	1,034
営業外収益		
為替差益	—	137
その他	54	72
営業外収益合計	54	210
営業外費用		
為替差損	307	—
休止施設費用	—	157
その他	29	12
営業外費用合計	336	169
経常利益	1,269	1,075
特別利益		
固定資産売却益	48	7
関係会社株式売却益	60	—
その他	2	—
特別利益合計	111	7
特別損失		
減損損失	84	—
固定資産除売却損	71	11
施設店舗整理損	358	84
その他	2	—
特別損失合計	516	95
税金等調整前四半期純利益	864	987
法人税等	314	405
四半期純利益	549	582
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	536	575

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	549	582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	4
繰延ヘッジ損益	290	△14
為替換算調整勘定	△257	36
退職給付に係る調整額	△0	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	43	14
四半期包括利益	593	596
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	578	588
非支配株主に係る四半期包括利益	14	7

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、株式取得に伴い、Propeller USA Inc. 及びHi-Standard Film, LLCを連結範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	956百万円	1,050百万円
のれんの償却額	—	23

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	49	5	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	49	5	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	13,787	19,995	33,783	—	33,783
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,271	98	5,369	△5,369	—
計	19,058	20,094	39,153	△5,369	33,783
セグメント利益	795	668	1,464	87	1,551

(注) 1. セグメント利益の調整額87百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート挙式」セグメントにおいて18百万円、「ホテル・国内挙式」セグメントにおいて65百万円の減損損失をそれぞれ計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	14,005	20,474	34,480	—	34,480
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,548	93	5,642	△5,642	—
計	19,554	20,568	40,122	△5,642	34,480
セグメント利益	238	765	1,003	30	1,034

(注) 1. セグメント利益の調整額30百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な処理の確定)

平成29年3月7日に行われたMichel's, Inc. からの事業譲受について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、のれんとして計上していた金額の一部を組み替えております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額509百万円は、会計処理の確定により4百万円増加し、513百万円となっております。また、前連結会計年度末の建物及び構築物は0百万円減少、器具備品は6百万円増加、のれんは4百万円増加、無形固定資産のその他は2百万円増加、流動負債のその他は11百万円増加、利益剰余金は0百万円増加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	54円14銭	58円04銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 金額 (百万円)	536	575
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	536	575
普通株式の期中平均株式数 (株)	9,909,068	9,908,933

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年1月29日

ワタベウェディング株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 美樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木戸脇 美紀 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上田 博規 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているワタベウェディング株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ワタベウェディング株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成30年2月1日
【会社名】	ワタベウェディング株式会社
【英訳名】	WATABE WEDDING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 花房 伸晃
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

代表取締役 社長執行役員 花房 伸晃は、当社の第54期第3四半期（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。